

令和7年伊賀市議会定例会 令和7年12月定例会月会議 一般質問通告者一覧

【発言予定日 12月5日（金）】

発言 順位	発 言 者	発 言 の 要 旨
1	北山 太加視	<p>1 災害への備えについて</p> <p>(1) 災害支援及び応援協定の状況</p> <p>(2) 災害時のトイレ問題について</p> <p>2 職員採用・人材確保について</p> <p>(1) 人材確保の状況</p> <p>(2) 職場環境の整備</p>
2	大石 亮子	<p>1 すべての子どもの学びが保障される伊賀市へ</p> <p>(1) 「不登校支援」から「多様な学びの保障」への転換について</p> <p>(2) 多様な学びの保障の現状と課題について</p> <p>(3) 学びの保障を軸とした支援体制への転換について</p> <p>2 こどもの最善の利益の観点から「こども誰でも通園制度」を考える</p> <p>(1) こども誰でも通園制度創設の社会的背景と国が示す制度趣旨を市としてどう理解して位置付けているか</p> <p>(2) 保育所等に通園していない乳幼児家庭の現状とニーズについて</p> <p>(3) 『保育』と『子育て支援』の両面から見た適切な運用体制について</p> <p>(4) こどもの最善の利益を中心に据えた制度運用について</p> <p>(5) 子育て支援センターを活用した運用の可能性について</p> <p>3 利用可能な公共交通空白地域における高校生の通学手段の確保について</p> <p>(1) 利用可能な公共交通空白地域における高校生の通学実態を、市としてどの程度把握しているか。</p> <p>(2) 高校生の通学手段を、地域交通計画にどのように位置づけているか。</p>
3	森中 秀哲	<p>1 南海トラフ巨大地震を想定した「災害関連死を出さない避難所体制」構築について</p> <p>(1) 過密回避のための在宅避難</p> <p>(2) 国際基準を充足する避難所環境</p> <p>(3) 避難所環境の質的確保に対する市長の認識</p>

発言 順位	発 言 者	発 言 の 要 旨
4	陶 山 美 佐	<p>1 青山保健センター運動施設プールの今後について</p> <p>(1) 公募型プロポーザルの内容と結果。</p> <p>(2) 市はこの結果をどのようにとらえ今後どのように考えていますか。</p> <p>(3) 津市美里保健センター運動施設と連携する事は可能か？又この施設に代わる代替施設を考えていますか。</p> <p>2 認知症見守り安心シールについて</p> <p>(1) 今の現状（周知方法や登録人数等）を教えてください。</p> <p>(2) 認知症予防段階から気軽に使えるしくみを</p> <p>3 ガバメントクラウドファンディング（G C F）を活用し地域の介護予防や送迎支援について</p>
5	西 田 方 計	<p>1 人権啓発・社会人権教育は進んだか</p> <p>(1) 「差別をなくす協調月間」に臨む市の姿勢は</p> <p>(2) 「宅建業者2024実態調査」の結果に基づいた取り組みの進捗は</p> <p>(3) 強調月間行事の地域単位での実践の深化を</p> <p>(4) 「人権作品」の募集と活用の充実を</p> <p>(5) 教育集会所での子どもたちの活動を支える保護者の組織化を</p> <p>2 周辺部居住の高校生が自力通学でき、将来も住むことを選択肢にできる方策を問う</p> <p>(1) 「公共交通通学定期券購入費助成事業」制度設計の進捗は</p> <p>(2) 周辺部（郡部・村部）で子どもを安心して育てるための教育面での支援を考える</p>
6	桃 井 弘 子	<p>1 公共交通について</p> <p>2 教育について</p> <p>3 防災について</p>

【発言予定日 12月8日（月）】

発言 順位	発 言 者	発 言 の 要 旨
7	福 村 教 親	<p>1 「新生活スタートアップ応援事業」について</p> <p>(1) 来年度の、高3・中3新卒者にも同事業を実施しますか</p> <p>(2) 財源は何ですか</p> <p>(3) 市長の考える財源確保と安定した行政サービスとは</p> <p>2 伊賀市の財政管理と運用について</p> <p>(1) 現在の財政調整基金の残高は</p> <p>(2) 「含み損」の有無</p> <p>(3) 財政調整基金の取り崩し基準とリスク管理</p>
8	北 森 徹	<p>1 伊賀市夢のある農業振興計画について</p> <p>(1) 伊賀市における夢のある農業とは</p> <p>(2) オーガニックビレッジ宣言のその先について</p>
9	上 田 宗 久	<p>1 伊賀米の持続的生産のために</p> <p>(1) 「地域計画」から示された稲作農村集落の現状と課題</p> <p>(2) 農地バンク活用の集積率と農地整備事業の関係性</p> <p>(3) 夢のある稼げる稲作農業とは</p> <p>2 伊賀市における大規模太陽光発電事業について</p> <p>(1) 伊賀市の先例と届出指導要綱の広がり</p> <p>(2) メガソーラーに対する国・県の動向</p> <p>(3) メガソーラーに対する市長の政治姿勢</p>

発言 順位	発 言 者	発 言 の 要 旨
10	浅 川 友 和	<p>1 子どもが安心して相談できる伊賀市、子ども家庭センターと権利条例の整備について</p> <p>(1) 子どもの権利条例の進捗</p> <p>(2) 子ども本人の相談窓口とハイトピアの位置づけ</p> <p>(3) SNS相談の積極的活用</p> <p>(4) 人員配置とアウトリーチ体制の強化</p> <p>2 伊賀市の図書館再編による、子どもたちの読書リテラシーの格差解消</p> <p>(1) 子どもの読書アクセスの現状確認</p> <p>(2) にんにんブッカーの課題把握と改善方針</p> <p>(3) 読書リテラシー格差リスクへの対応方針</p> <p>(4) タブレット予約＋学校配送・受取型サービスの導入について</p> <p>3 空き家対策の研究成果と危険空き家への市の対応について</p> <p>(1) 空き家把握の基準づくりの研究成果について</p> <p>(2) 地域での活用状況と評価について</p> <p>(3) 危険な空き家・越境樹木に対する市の対応について</p> <p>(4) 今後のモデル化と地域連携の方向性について</p>
11	宮 崎 栄 樹	<p>1 市長就任一年目の成果と課題を問う</p> <p>(1) 一年目の成果と課題</p> <p>(2) 参加と協働の仕組みづくり</p> <p>(3) 農業と林業の「人づくり」</p> <p>(4) 市職員の「人づくり」</p> <p>(5) 住民自治を進める「人づくり」</p> <p>(6) 市民に着実に届き地域経済が循環する物価高騰対策に</p> <p>2 大規模太陽光発電（メガソーラー）の規制と「自然との共生」政策の展開</p> <p>(1) メガソーラーに対する市長の考えは</p> <p>(2) ネイチャーポジティブ宣言と生物多様性地域戦略の策定</p>
12	赤 堀 久 実	<p>1 適切な価格転嫁と処遇改善で安定した労働環境について</p> <p>(1) 国の法改正に伴いどう変わるのか（担い手3法）</p> <p>(2) 指定管理者制度について</p> <p>2 5歳児検診について</p> <p>(1) 5歳児発達相談の現状と課題</p> <p>(2) 5歳児検診の実施計画</p> <p>3 帯状疱疹ワクチンについて</p> <p>(1) 現状と今後の周知のあり方</p>

【発言予定日 12月9日（火）】

発言 順位	発 言 者	発 言 の 要 旨
13	福岡 正 康	<p>1 大山田地内に建設予定の産業廃棄物最終処分場について</p> <p>(1) 水道水源保護審議会</p> <p>(2) 伊賀市として取り組む姿勢</p> <p>(3) 環境保全・農業用水に対する取り組み</p> <p>2 大山田公共施設複合化整備方針</p> <p>(1) 公共施設最適化計画における位置づけ</p> <p>(2) これまでの課題・整備方針・スケジュール等</p>
14	寺 村 京 子	<p>1 小学生にもインフルエンザワクチンの助成を</p> <p>(1) インフルエンザ流行に伴う学級閉鎖について</p> <p>(2) 年代別の罹患状況・予防接種率とその傾向は</p> <p>(3) 小学生の「自費で2回接種による負担の大きさ」と助成の必要性、費用対効果</p> <p>(4) 小学生への助成制度創設について</p> <p>2 0～2歳児の保育受け皿不足をどう解消するのか―民間小規模保育所の早期整備を</p> <p>(1) 今年度11月時点での未満児私的待機児童数とその傾向は。</p> <p>(2) 現在の保育所に通う0，1，2歳の児童数と昨年との比較は。 また、「認可保育所定数」以外の保育の受け入れ状況は。</p> <p>(3) 市中心部の保育受け皿整備についての今後の方針は</p> <p>3 財政硬直化を打破するクリエイティブな人材育成を</p> <p>(1) 財政硬直化と公立施設の老朽化という構造課題について</p> <p>(2) 職員の生産性向上と人材育成について（外部研修・人事交流など）</p>
15	内 原 篤	<p>1 障がい者医療費の公平性と現物給付について</p> <p>(1) 医療費償還払いの現状と課題について</p> <p>(2) 医療費助成制度の中の矛盾について</p> <p>(3) 現物給付へむけた今後の取り組みについて</p> <p>2 身よりのない高齢者の終活支援と最期の安心体制について</p> <p>(1) 身よりのない高齢者が抱える不安とその実態について</p> <p>(2) 他市でのエンディングサポート事業について</p> <p>(3) 伊賀市においての終活支援事業の検討と今後の方向性について</p>

発言 順位	発 言 者	発 言 の 要 旨
16	森 川 徹	1 市長就任1年を振り返って (1) 市長の発言の重み 2 自主防災組織について (1) これまでの自主防災組織 (2) 今後の自主防災組織
17	百 上 真 奈	1 住民課窓口業務の外部委託を直営にもどすことにした意義 (1) 外部委託から直営にもどすことにした市長の思い (2) 外部委託した理由と直営にもどすことにした理由 (3) 行政の窓口業務の今後のあり方 2 ジェンダー格差と高齢単身女性が抱える問題 (1) 高齢単身女性の貧困問題について (2) 貧困実態をどのように把握しますか (3) 行政からの支援は届いていますか 3 こども誰でも通園制度の本格実施を前に (1) こども誰でも通園制度の実施目的と来年度からの実施概要 (2) こども誰でも通園制度の問題点と改善に向けて